



今夏は中学校教科書採択の年

教科書を どう選ぶ?

子どもたちにどんな教科書を手渡したいか

講演会

講師：樋浦敬子 (藤沢とりくむ会)

5月19日講演会「教科書を どう選ぶ

子どもたちにどんな教科書を手渡したいか」

寄せられた感想文からいくつかを紹介します

ご参加、感想、カンパ、激励などなどありがとうございました。

1) 義務教育がこれからどんな風が変わっていくのか心配。資料にも書いてある通り、教科書に政治、右派が介入する限り、運動は止められないと思う。

藤沢の教育委員会は、今かなり民主的だと思うのでそれもやはり運動の成果か。教科書の問題と同時に先生の多忙の問題をもっと考えないと・・・。



2) 「従軍慰安婦などなかった」「南京大虐殺などなかった」というようなそを教える教科書が使われることは耐えられない、阻止したいという気持ちから教科書問題にかかわってきた一市民です。

今日のお話はとても興味深く中身ぎっしりで勉強になりました。歴史修正主義の他に個人を十分尊重しない家族観などの問題もあるのだということも知りました。

教科書展示を見に行き感想・意見を書こうと思います。

3) 子どもたちにどんな教科書を渡すべきなのか、改めて考えさせてもらえるいい機会となった。樋浦さんがおっしゃるように、現場は多忙で十分な研究時間を確保するのが難しい。そんな中でも、しっかり見極めるためにもこれから行われる学習会などは、とても勉強になります。2011年からの取り組みが実を結び、可視化された教科書採択を今後も持続していくために、現場の教員の意見を尊重して採択していくためにも、これからも共に働きかけていきたいと思ってい

ます。まだまだ勉強不足のため、今後もいろいろと教えていただければ幸いです。ありがとうございました。

4) ジェンダーや家族観などは現代の現実の社会とかけ離れてきていて、育鵬社・自由社・(令和書籍受け入れられないと気付いたのか?)と感じたが、歴史の方は相変わらず修正主義であり、自分たちの運動としての教科書発行というのは本当に許しがたい。令和書籍の500ページを超えなど筆者の趣味の領域である。ほぼパンク状態の学校現場に負担をかける迷惑行為ではないだろうか。子どもたちの学習量がどんどん増えていて(英語や道徳の教科化など)子どもの負担、理解度も考えると、学校教育の問題の解決は大きな視点から小さな視点まで必要のようである。



2020年7月31日教科書採択
報告集会で撮影
藤沢市役所会議室

5) 小中学校で孫が使う教科書についてよく分かりました。知人にも広めたいと思います。子どものための教科書が選ばれて欲しいです！
ありがとうございました。ミニ学習会に出てみようかな。

6) 茅ヶ崎市に住んでおります。小学生・中学生・高校生の子どもがおります。どのような教科書を使っているか、お恥ずかしいですが、知りませんでした。今日、帰ってから、手に取って見てみようと思います。子どもたちのためにどんな教科書を使って欲しいか、改めて考えるキッカケを与えて下さり、ありがとうございます。

7) 保守の人たちの運動としての教科書発行ということに納得できました。検定を通ったことが国のお墨付きをもらったということで、いろいろなことに影響を及ぼしてしまう、。だからこそ、そんな教科書は絶対に採択しないようにしたい。「育鵬社などの教科書なんか相手にしない」という世の中になって欲しい。(採択に関して、現場の教員の忙しさが心配です。QRコードの中身が不安です。)今日は、わかりやすいお話しをありがとうございます。これからも情報をよろしくお願いします。

8) 樋浦さんのお話、とてもわかりやすく聞くことが出来ました。令和書籍の竹田さん、何も教科書でなくてもと思いました。

やはり「子どもたちのために」を大切に、現場の教員たちが使いたい教科書を選んでいく責任が私たちにはありますね。学習し、展示会に行き、しっかりと声をあげていきたいと思いました。

市民の声で変えられます。例えばこんなことが実現。

①教科書展示会で書いた市民意見書のまとめ作成・公表

②学校からの調査書のまとめ作成・公表

☆2020年は採択審議委員会の傍聴者・記者に配付。新聞記事に。

③別会場での音声傍聴の実施(市民会館小ホール)。2023年は映像も準備。

教科書展示会で教科書を手に取り、

わたしの意見・感想・思いを届けましょう。